

の後片付け作業が十二月で終わり、引き揚げとなり、アメリカ船で宮古島を出港。島影一つ見えない航路で内地送還とは聞いていたが、行き先がはつきりせず不安の十三日目、雪に覆われた富士の霊峰を見、待ちあぐねた祖国に帰れて感無量。十二月二十八日、横須賀港に上陸。

踏みしめる土も懐かしく、復員局で検疫を受け復員解除。友と再会を約し、各自無事に帰れた体を土産に家族の待つ故郷へ。

戦後四十八年、世界各地でのテレビなどで伝えられる内戦、民族紛争に起因する出来事は見るに忍びません。極限状態に追い込められ、悲惨の一言に尽きる生活を余儀なくされた多くの人が存在することも事実です。

戦争の悲劇、愚かさを二度と繰り返

返してはなりません。老年、若人の別なくすべての人が戦争放棄を合言葉に、永遠の平和を実現するため、他国の人とも手を結び、信じ合い、親から子へ、子から孫へと戦争の悲劇を風化させないよう語り継ぐことも私たちの責務と思います。

